



アジア留学のすすめ





Kansai Gaidai

アジア留学のすすめ

INDEX

- アジアを知ろう！
留学したい！
- 3 日本の英語は世界で通じる？～TOEFLアジア国別結果～
4 アジアの大学はスゴイ！～アジア大学ランキング～
6 英語圏留学が可能なアジア交換提携校リスト
(中国・香港・韓国・シンガポール)
- 8 アジア留学～先輩の声～
- 10 ASEAN 諸国の紹介
- 11 インドネシア・タイ
12 ベトナム・カンボジア
13 シンガポール・フィリピン
14 マレーシア・ラオス
15 ミャンマー・ブルネイ
16 中国
17 韓国
- 18 関西外大の取り組み
- 18 本学の留学制度
20 「ASEAN+3大学コンソーシアム」の概要
22 「ASEAN+3大学コンソーシアム」協定校の紹介
25 アジア留学に役立つURL集

留学したい!



…でも、どこに行けばいい?
そんな時、皆さんの頭に
「アジア留学」という考えは浮かぶでしょうか。

Q1. アジアの国・地域へ行ったことがありますか?

本学の授業でアンケートをとった結果、韓国・中国が多く、タイ・シンガポール・マレーシアが続きました。旅行で行くことはあっても、留学先には選ばない…なぜ?
「アジア圏を留学先に選ばない理由」として大半の人が「言語の問題」「英語を学びたいが、機会が少なそう…」と回答しました。

Q2. アジアの大学で英語を学ぶことができることを知っていますか?

「知っている」と答えた人は、回答者の半分ほどでした。アジア圏の大学では、英語で開講されている授業・コースが多数あり、また「ローカル言語」の集中講座もあるので、英語+もう1言語を習得することができます。トライリンガルも夢じゃない!
日常生活においても「英語」で生活できます。香港やシンガポールでは、公用語として「英語」が使われています。英語環境が整っているため、世界中からいろんな国々の学生や国際企業が集まっています。
世界の大学ランキングでも上位レベルの大学が多数あります(p.4「アジア大学ランキング」参照)。

Q3. 近いから日本とあんまり差がないのでは?

渡航費や生活費を節約でき、就職活動などで帰国するのも欧米諸国に比べて時間がかからないのです。

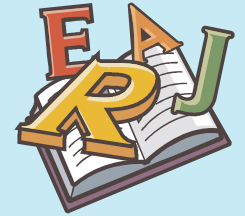
Q4. イメージが悪い(治安が悪そう/汚い・不便なイメージ)と思いませんか?

「関西外大・短大からアジアの大学へ留学できるとすれば、行きたいですか?」との質問では70%の人がYESと答えましたが、まだまだマイナスイメージがあるようです。しかし、馴染みの薄い東南アジア諸国、文化や民族の多様性が見られ、生活することでしか得られない「かけがえのない機会」に恵まれています。

今、世界中がアジアに注目しています。
もっとアジアについて知っていきましょう!

日本人の英語力はアジアの中で
どのあたりに位置付けられているのでしょうか。

「2009年TOEFLアジア諸国・地域の平均スコア(iBT)」(表)によると、日本は28位。上位の国々は、英語を公用語としていたり、イギリスなどの植民地であったという歴史があります。TOEFLは受験料が高いため学習意識の高い人だけが受験するということもあり、この結果だけで判断することはできませんが、日本人の英語力がアジアのどの辺りにあるのか知っておく必要はあります。



	国名	Reading (30)	Listening (30)	Speaking (30)	Writing (30)	Total (120)
1	シンガポール	25	25	24	26	99
2	インド	22	22	23	23	90
3	フィリピン	21	22	23	23	88
4	パキスタン	20	22	23	23	88
5	マレーシア	22	22	21	23	88
6	ブータン	20	20	23	23	85
7	バングラデシュ	20	20	21	22	82
8	スリランカ	19	20	21	21	81
9	キルギスタン	19	20	21	21	81
10	韓国	21	20	19	21	81
11	香港	19	20	20	22	81
12	トルクメニスタン	18	20	21	20	80
13	インドネシア	19	20	19	21	79
14	ネパール	18	18	20	21	77
15	中国	20	17	18	20	76
16	カザフスタン	17	19	20	19	76
17	ウズベキスタン	17	19	21	20	76
18	北朝鮮	18	18	19	20	75
19	モンゴル	18	19	19	19	75
20	タイ	18	18	18	19	74
21	台湾	19	18	19	19	74
22	アゼルバイジャン	18	17	20	19	74
23	アフガニスタン	13	17	21	19	71
24	ベトナム	18	16	17	19	70
25	ミャンマー	16	17	19	19	70
26	マカオ	16	16	18	20	70
27	タジキスタン	14	15	20	18	67
28	日本	17	16	16	18	67
29	ラオス	12	14	17	17	60

(ETS, TOEFL Test and Data Summary January 2009 and December 2009 受験結果より抜粋)



[アジア大学ランキング2010]

毎年恒例のアジア大学トップ200校をランク付けした「アジア大学ランキング2010」が発表されました。これは、研究者らによる評価、学生数に対する教師の多さ、卒業生の評判、研究や授業内容の質、卒業後の就職実績、国際性などをもとに評価されています。


アジアには世界でもトップレベルの大学が多く、本学と提携している大学も多数あります。


●印は本学と提携しています


	大学名	国名	本学と提携
1	香港大学	香港	●
2	香港科技大学	香港	
3	シンガポール国立大学	シンガポール	
4	香港中文大学	香港	●
5	東京大学	日本	
6	ソウル大学	韓国	
7	大阪大学	日本	
8	京都大学	日本	
9	東北大学	日本	
10	名古屋大学	日本	
11	東京工科大学	日本	
12	北京大学	中国	
13	韓国科学技術院 (KAIST)	韓国	
14	浦項工科大学 (POSTECH)	韓国	
15	香港市立大学	香港	
16	清華大学	中国	
17	九州大学	日本	
18	南洋工科大学	シンガポール	●
19	延世大学校	韓国	●
20	筑波大学	日本	

(Times Higher Education Supplement/Quacquarelli Symonds, Asian University ranking 2010 より抜粋)


関西外大は他にも 多くの大学と提携しています

 **韓国** ●高麗大学 (29位) ●梨花女子大学 (48位)
●啓明大学 ●ソウル女子大学 ●大眞大学
●東西大学 ●釜山外国語大学 ●嶺南大学


 **台湾** ●静宜大学 ●東海大学

 **中国** ●内モンゴル師範大学 ●吉林大学 ●上海外国語大学
●西安外国語大学 ●蘇州科技学院 ●大連外国語学院
●中山大學 ●天津外国語大学 ●天津理工大学
●南開大学 ●北京吉利大学 ●北京語言大学
●北方工業大学 ●香港理工大学 (30位)

 **シンガポール** ●シンガポールマネジメント大学

 **タイ** ●アサンブション大学 ●バンコク大学

 **フィリピン** ●アテネオデマニラ大学

 **ベトナム** ●ベトナム国立社会人文科学大学

 **マレーシア** ●マレーシアサインス大学

英語圏留学が可能な アジア交換提携校 (英語開講科目リスト)

「★」の大学は開講科目が全て英語



中国 (香港)

★ 香港大学 (The University of Hong Kong)

- Faculty of Business&Economic (経済、ファイナンス、経営、マーケティング等)
<http://www.fbe.hku.hk/Programme/Undergraduate/index.cfm>
- Faculty of Art (文学、外国語、アメリカ・ヨーロッパ・日本研究等)
<http://arts.hku.hk/homepage/departments.html>
- Faculty of Social Science (地理、社会学、心理学、ソーシャルワーク等)
http://www.hku.hk/acad/ugp/faculties_soci_about.html
- Faculty of Education (言語教育、教育学全般)
<http://www.hku.hk/education/>

★ 香港中文大学 (The Chinese University of Hong Kong)

- Faculty of Art (人類学、異文化研究、歴史、言語学、哲学、宗教学)
<http://www.cuhk.edu.hk/v6/en/faculties/arts.html>
- Faculty of Business and Administration (会計学、ホテル・観光学、経営学、マーケティングなど)
http://www.cuhk.edu.hk/v6/en/faculties/business_administration.html
- Faculty of Education (言語教育、教育心理、カリキュラム学、教育政策、教育全般)
<http://www.cuhk.edu.hk/v6/en/faculties/education.html>
- Faculty of Social Science
(経済学、地理学、公共政策、ジャーナリズム、心理学、ソーシャルワーク、社会学等)
http://www.cuhk.edu.hk/v6/en/faculties/social_science.html

★ 香港理工大学 (The Hong Kong Polytechnic University)

- Faculty of Business (会計学、ロジスティクス、マネージメント、マーケティング等)
<http://www.polyu.edu.hk/fb/>
- Faculty of Humanities (中国文化、英米学、中国語・バイリンガル研究)
<http://www.polyu.edu.hk/fh/>
- School of Design (ファッション、デザイン、マルチメディアデザイン等)
<http://www.sd.polyu.edu.hk/web/>
- School of Hotel and Tourism Management (ホテル経営学、観光学等)
<http://www.polyu.edu.hk/~htm/>



韓国

高麗大学 (Korea University)

- Business School (経済、ファイナンス、経営、マーケティング等)
- College of Liberal Arts (外国語、歴史、哲学、社会学、心理学等)
- College of Political Science and Economics (政治経済、国際関係、公共政策)
- College of Education (教育分野全般)
- Division of International Studies (アジア情勢、国際関係、国際ビジネス等)
<http://www.korea.edu/> (英語開講科目検索可能)

啓明大学 (Keimyung University)

<http://www.kmu.ac.kr/english/>
分野：韓国事情、アジア事情、国際関係論、国際政治、国際ビジネス等

嶺南大学 (Yeungnam University)

- 人文科学系 現地学生・留学生向け英語開講科目 (リストが欲しい人は国際交流部星野まで)



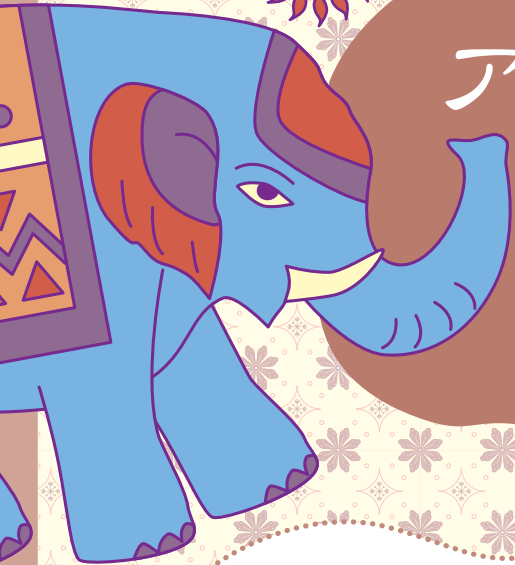
シンガポール

★ 南洋理工大学 (Nanyang Technological University)

- College of Business (観光学、ホスピタリティー、会計学、ビジネス分野一般)
- College of Humanities, Arts, and Social Sciences (心理学、社会学、言語学等)
<http://www.ntu.edu.sg/collegesandprogrammes/Pages/colleges.aspx> 各学部ページへのリンク

★ シンガポールマネージメント大学 (Singapore Management University)

<http://www.smu.edu.sg/>
会計学、ビジネス一般、経済学、自分科学、社会科学等



アジア留学を 経験した 先輩の声!

シンガポールに来るべきです!

アジアに留学すれば、英語と中国語を(シンガポールの場合)同時に学べると思いました。アジアの物価は本当に安いので、食べ物はおいしく安く食べられるし、旅行などもすぐに行けます。留学は勉強して、自分の知識を磨くだけではなく、日本では体験できないことを、経験することも大事だと思います。シンガポール人は本当にみんな、よく教育されていて、英語プラス他の言語を話すことは余裕でできますし、安全な国です。日本よりいい国なのではないかと思っています。シンガポール英語も別にそこまで悪くありません。むしろ、みんな英語の発音うまいです。より一層シンガポールが好きになりました。

K.Nさん 南洋理工大学 交換留学(2009-2010)

韓国でも授業は英語!

学校から出ると英語はあまり通じないので、正直非英語圏であることは否定できません。しかし、学校では授業は英語ですし、欧米や日本以外のアジアから来た友達とは当然英語でコミュニケーションをとるので、学校生活は欧米に留学している学生とほぼ変わらないのでは?と思います。そんな中、ヨーロッパやアメリカに留学している学生にはわからないアジアならではのカルチャーショックを経験したり、自分次第で第二外国語能力も伸ばしたりできるので、アジアでの英語圏留学は留学先選択の際に一度考えてみて絶対に損はないと思います。

Y.Yさん 啓明大学 交換留学(2009-2010)

ベトナム語を話せなくても大丈夫!

私はベトナムへの語学留学なので、必然的に受講する科目はベトナム語集中講座に限られます。しかし、コマ数や授業レベルなどはセッション毎で選択可能です。授業言語は英語ですが、セッションの後半からはベトナム語も使われます。全てが教科書を使用してというわけではありません。初級レベルからであれば、ベトナム語を全く勉強していないでも十分授業にはついて行けると思います。基本的に文系のベトナム語学生であれば英語は話せるし、ベトナム語講座を受講している方は海外から働きに来ている外国人や私のような留学生で、彼らとのコミュニケーションは英語です。ホーチミン市内でも中心街であれば、大半の場所で英語は通じます。

K.Uさん ベトナム国立社会・人文科学大学
交換留学(2009-2010)

アジア留学がきっかけで就職!

元々は高校の時からアメリカ・カナダ・オーストラリアへの留学を希望していました。大学1年の冬休みに一カ月間フィリピンへ語学留学したことで、アジアでの語学留学に目を向けるようになりました。その後、語学を伸ばせる環境・国際関係学が強い大学を求め、香港大学へ交換留学。国際関係学の授業で「靖国問題」についての発表の後に日本の痛烈な批判をされ、日中問題について解決策を模索した経験が、後の大学院進学のかきかけとなりました。世界の大学で唯一のASEAN STUDIES学部を持つマラヤ大学アジアヨーロッパ研究所ASEAN STUDIES専攻に入学。一ヶ月間インドネシアジャカルタのASEAN事務局でインターンシップをした経験から、東南アジア、アジア地域の平和や繁栄に貢献できる仕事がしたいと思うようになりました。就職は外務省専門調査員に応募・合格!経験したことが全て今回の進路決定の要因になりました。それぞれ違った顔をみせるアジア諸国から、その魅力を感じ、人を知り、その国の抱える問題を学び、深くアジアに精通するような学生が多くてきて欲しいです!

A.Kさん 外務省 専門調査員ハワイ勤務(2010)

アジアで就職するときに必要なこと

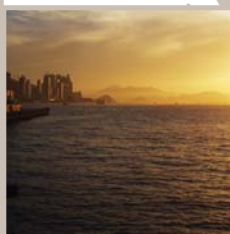
アジアで活躍する人材・企業に求められる人材とは、「アジアの一員」としての自覚、使える確かな「英語力」、コミュニケーション力(社会性)、想像力・柔軟性、異文化の知識と対応力、率先性・積極性を持ち合わせた人物です。日本人が海外で評価されているポイントは、仕事達成への責任感の高さ、勤勉さ、礼儀正しさ、規律正しさ、業務作業の迅速性などです。評価されないポイントとしては、本心・真実が分からない、柔軟性のなさ、英語のレベル、保守的、直接的でない、などが挙げられます。アジアで働く関西外大卒業生が「学生時代に修得しておけば良かった」と感じる点としては、プレゼン力(仕事・会議での発表、日常での交渉事)とあらゆる面のマネージメント力です。アジアで働いて得た物は多々ありますが、「順応性・柔軟性・タフさが身に付いた」「自分自身、日本をよく知るようになった」「日本人である誇りと責任感」「物事を多方面・多角度から見るクセがついた」等があります。アジアで頑張るためには、「語学力」「仕事能力」で補い「運用力」を高め、日本人の得意面をキープし、マネージメント力を養い、コミュニケーションを取ろうとする力が必要です!

Y.Fさん 外資系ホテル勤務(2010)



ASEAN諸国の 情勢と教育

インドネシア/タイ/ベトナム/カンボジア/シンガポール
フィリピン/マレーシア/ラオス/ミャンマー/ブルネイ



ASEAN諸国の情勢と教育

ASEAN10カ国



インドネシア

[正式名称:インドネシア共和国]

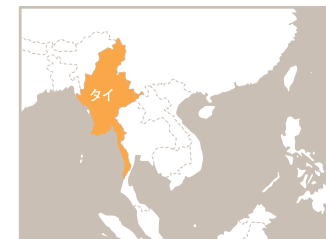
- (1) 人口: 2億2,800万人 (2008年政府推計)、
首都: ジャカルタ (人口914万人)
- (2) 面積: 189万km² (日本の約5倍)
- (3) 宗教: イスラム教88.6%、キリスト教8.9%、ヒンズー教1.7%
- (4) 言語: インドネシア語
- (5) 政治体制: 共和制 (国家元首はユドヨノ大統領)
- (6) 特色: 赤道を中心とした東西5000キロメートルのエリアに、1万7500もの島々が点在する。面積、人口ともに東南アジアにおいて最大規模で、美しい自然と多様な文化が息づいている。
- (7) 教育制度: 初等中等教育については、国民教育省が管轄する約8割の一般校と宗教省が管轄する約2割のイスラム系学校がある。どちらも小学校6年間、中学校3年間、高校3年間の6・3・3制である。義務教育は9年間。2005年度の就学率は、小学校94.3%、中学校62.1%、高校42.6%と依然として低い状況である。一方、高等教育機関 (大学等) は急増しており、約3,400校が存在 (2005年)。また、国立大学では段階的に法人化を進めており、2007年時点で7大学が法人化されている。



タイ

[正式名称: タイ王国]

- (1) 人口: 6,338万人 (2008年)、首都: バンコク (人口571万人)
- (2) 面積: 51万4,000 km² (日本の約1.4倍)
- (3) 宗教: 仏教94%、イスラム教5%
- (4) 言語: タイ語
- (5) 政治体制: 立憲君主制 (国家元首はプミポン・アドゥンヤート国王)
- (6) 特色: インドシナ半島中央部に独自の歴史と文化を育んできた敬虔な仏教国で、「微笑みの国」と呼ばれている。また、華麗な仏教建築、歴史的遺産、雄大な自然、刺激的なタイ料理と多様な魅力を持っている。
- (7) 教育制度: 初等中等教育は6・3・3制。「1999年国家教育法」による基礎教育改革が実施され、中央による強い統制から、地方分権・規制緩和・事後検証などの政策が取り入れられた。さらに2002年から新しい「基礎教育カリキュラム」が導入され、12年間で3年ごとの4つのステージに分け、ステージごとの達成目標を定め、各ステージの終わりにナショナル・テストを実施している。また、高等教育段階では国際化に力を入れており、53大学で844の国際プログラムを実施している。



ASEAN諸国の 情勢と教育



ベトナム

[正式名称: ベトナム社会主義共和国]



- (1) 人口: 8,579万人(2009年)、首都: ハノイ(人口約300万人)
- (2) 面積: 32万9,241 km²(日本の約0.9倍)
- (3) 宗教: 仏教80%
- (4) 言語: ベトナム語
- (5) 政治体制: 社会主義共和制(国家元首はグエン・ミン・チエツト国家主席)
- (6) 特色: 南北に細長い地形が生む地域色や、中国やフランス統治時代の文化が色濃く残る。市場経済システムの導入と外国に対して開放化を図るドイモイ(刷新)政策により、目覚ましい経済発展を遂げつつある。
- (7) 教育制度: 初等中等教育は、南北ベトナムの統一後6年経過した1981年以降、教育システムを一本化し5・4・3制を採用した。1998年には全教育段階を網羅する体系的な「教育法」が制定され、ベトナム社会の市場化の進展に対応した包括的な教育理念が示された。高等教育においても、既存の単科大学などの統合を進め、2つの国家大学と12の地方総合大学など新しい形態の高等教育機関が形成された。一部の大学では、英語による授業を提供するコースやベトナム語を学習する短期集中コースなど外国人留学生向けのコースを設けて留学生受け入れを積極的に進めている。



カンボジア

[正式名称: カンボジア王国]



- (1) 人口: 1,340万人(2008年)、首都: プノンペン
- (2) 面積: 18万1,000 km²(日本の約2分の1弱)
- (3) 宗教: 仏教(一部少数民族はイスラム教)
- (4) 言語: カンボジア語
- (5) 政治体制: 立憲君主制(国家元首はノロドム・シハモニ国王、首相はフン・セン)
- (6) 特色: インドシナ半島での長い戦乱・そして内戦を経て、1993年総選挙によって新政府を樹立し、1998年に国連の代表権を回復した。翌1999年にはASEANに正式加盟した。メコン河とトンレサップ湖という豊かな水資源と肥沃な国土に恵まれたカンボジアの主要産業は農業と観光で、とくに世界遺産「アンコール遺跡」には毎年数多くの観光客が訪れている。日本との交流の歴史は長く、朱印船時代には日本人町も存在した。現在でも、日本は遺跡の保存修復活動をはじめ多くの支援を行っている。
- (7) 教育制度: 初等中等教育は、小学校6年、中学校3年、高校3年と日本と同じ6・3・3制であるが、ポルポト政権によって教育基盤が破壊された影響で、依然として教室・教師・教材が不足している。このため、多くの学校では午前・午後の2部授業を行っている。生徒は空いた時間は、プライベート・スクールで英語やコンピュータを勉強、また家の手伝いやアルバイトをしている。現状では小学校6年を卒業できるのは5割程度にとどまっており、カンボジア教育省が中心となって、ユニセフ等の支援の下に、すべての子供が学校に通えることを目指したChild Friendly School(CFS)構想を推進している。



シンガポール

[正式名称: シンガポール共和国]



- (1) 人口: 499万人(内、シンガポール人・永住者は373万人)(2009年)
- (2) 面積: 707 km²(東京23区とほぼ同じ)
- (3) 宗教: 仏教、イスラム教、キリスト教、道教、ヒンズー教
- (4) 言語(公用語): 英語、中国語、マレー語、タミール語
- (5) 政治体制: 立憲共和制(国家元首はSRナザン大統領、首相はリー・シェンロン)
- (6) 特色: 中国、マレー、インド、ヨーロッパなど東西の多様な文化、言語、宗教が調和し、独自の文化を形成している。エレクトロニクス産業などによって奇跡的な成長を遂げた後、自由貿易体制の確立・強化を進め、高い競争力を維持している。
- (7) 教育制度: 初等中等教育について、小学校は6年間で、1~4年の「基礎段階」と5・6年の「オリエンテーション段階」に区分されている。小4終了時には英語と民族語、算数に関する「振り分け試験」があり、その結果を受けて5・6年生は能力別コースに分けられる。中学校は、小学校卒業試験(PSLE)の結果に基づいて、成績上位約10%の生徒が特別コース、中位約50%が快速コース、下位の約40%が普通コースに進む。さらに、中学校終了時に「普通教育修了資格試験」(General Certificate of Education:GCE)普通(Ordinary:O)レベルまたはGCE標準(Normal:N)レベル試験、高校終了時には大学受験資格を兼ねたGCE-Aレベル試験がある。厳しい教育制度と併せてIT設備や施設整備などの教育投資を重点的に行い、国際的な教育調査でも世界トップレベルの成績をあげている。他方、このような厳しい試験競争を勝ち抜いていくために、親や子供たちの教育負担や心理的なストレスは非常に重いものになっている。



フィリピン

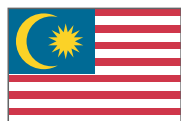
[正式名称: フィリピン共和国]



- (1) 人口: 8,857万人(2006年)、首都: マニラ(人口1,155万人)
- (2) 面積: 29万9,404 km²(日本の約0.8倍)
- (3) 宗教: カトリック教83%、その他のキリスト教10%、イスラム教5%
- (4) 言語: 公用語: フィリピン語と英語
- (5) 政治体制: 立憲共和制(国家元首はベニグノ・アキノ大統領)
- (6) 特色: 11の大きな島を中心に、7,000以上の島々からなる群島国家。ASEANで唯一のキリスト教国で、アメリカ文化やスペインを代表するヨーロッパ文化、フィリピン固有の生活文化が混合し、独自の文化が育まれている。
- (7) 教育制度: 初等学校6年、中等学校4年と初等中等教育が10年間である。諸外国と比べ短い期間であることから、フィリピン政府は中等教育から高等教育へ進む際に学生に必要とされる英語、数学、理科の学力の習得を目的にブリッジ(橋渡し)プログラムを一部の大学で試行し教育の質の向上を目指している。なお、初等中等教育では主に英語と理数系の科目は英語で、主に文化系の科目はフィリピン語で教育が行われている。また、高等教育では主として英語で教育が行われている。



ASEAN諸国の 情勢と教育



マレーシア



- (1) 人口：2,831万人(2009年)、首都：クアラルンプール
- (2) 面積：33万km²(日本の約0.9倍)
- (3) 宗教：イスラム教(連邦の宗教)、仏教、儒教、ヒンズー教、キリスト教
- (4) 言語：マレー語(国語)、中国語、英語
- (5) 政治体制：立憲君主制(元首はミザン・ザイナル・アビディン第13代国王)
- (6) 特色：イスラム教を中心としたマレー文化、中国文化、ヒンドゥー文化といった多様な文化が共存した多民族国家。国土の約70%を熱帯雨林が占めており、天然資源に恵まれている。かつてはゴムと錫中心の経済構造であったが、1970年以降、製造業を中心に工業化を推進し、著しい経済成長を遂げた。
- (7) 教育制度：小学校は6年、中学校は5年(下級3年+上級2年)で、大学進学を希望する場合はさらに大学予備教育(フォーム6)を2年又は1年受けなければならない。それぞれの段階の終了時点で全国統一試験があり、一定の成績以上でないとは進学できない制度になっている。小学校は、マレー語で教育する国民小学校(SRK)と中国語又はタミール語を教育言語とする国民型小学校(SRJK)に分かれる。



ラオス

[正式名称:ラオス人民民主共和国]



- (1) 人口：630万人(2008年IMF推定値)、首都：ビエンチャン
- (2) 面積：24万km²(日本の約0.6倍)
- (3) 宗教：仏教
- (4) 言語：ラオス語
- (5) 政治体制：人民民主共和制(国家元首はチェンマリイ・サイニャソーン国家主席)
- (6) 特色：ベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマー、中国の5ヶ国と国境を接し、ASEAN唯一の内陸国で、約50の民族が暮らしている。世界遺産に登録されているルアンパバーンやワット・プーなど魅力的な場所が数多く存在する。
- (7) 教育制度：初等中等教育は、小学校5年、中学校3年、高校3年の合計11年間である。初等教育の5年間は義務化、無償化されている。2004年には主要教育政策として、2015年までの初等教育の完全普及の達成に向けた「万人のための教育国家行動計画(EFA-NPA)」が発表された。大学への進学率は全国平均2%ほどで、ラオス国立大学が同国唯一の大学である。なお、初等教育から大学まですべて制服を着用している。



ミャンマー

[正式名称:ミャンマー連邦]



- (1) 人口：5,322万人(2004年)、首都：ネーピードー
- (2) 面積：68万km²(日本の約1.8倍)
- (3) 宗教：仏教90%、キリスト教
- (4) 言語：ミャンマー語
- (5) 政治体制：軍事体制(暫定政府)(国家元首はタン・シュエSPDC議長)
- (6) 特色：130以上の少数民族が住む多民族国家で、就業者の半分以上が農業に従事し、GDPの約60%を農業生産高が占める農業国。軍事政権による閉鎖的な社会主義経済政策で国内経済活動は低迷しているが、仏教文化が育んだ数々の遺跡や豊かな自然が観光資源としての可能性を秘めている。
- (7) 教育制度：ミャンマーでは伝統的に僧院での寺子屋式教育が普及し、また歴代政府がミャンマー語の普及に努めてきたため、識字率は約80%と開発途上国の中では高い水準である。学校はすべてが公立で、小学校が5年、中学校が4年、高校が2年、大学が4~8年である。小学校から毎年進級試験が行われるため、留年する生徒も多い。



ブルネイ

[正式名称:ブルネイ・ダルサラーム国]



- (1) 人口：39万人(2007年外国人在留者を含む)、首都：バンドルスリブガワン
- (2) 面積：5,765 km²(三重県とほぼ同じ)
- (3) 宗教：イスラム教(国教)
- (4) 言語：公用語はマレー語(英語が広く通用)
- (5) 政治体制：立憲君主制(国家元首はハナサル・ボルキア国王、首相は国王が兼任)
- (6) 特色：石油と天然ガスという豊かな地下資源に恵まれ、1984年の独立以来、国王による統治とエネルギー資源という経済基盤がもたらした高い経済成長によって安定した内政を維持してきており、さらに現在は経済の多角化、社会基盤整備、人材育成などを主目標に政策が進められている。
- (7) 教育制度：初等中等教育は、プレスクール1年、小学校6年、下級中学3年、上級中学2年と分かれている。その後大学予備教育2年を経て大学へ進学するコースと職業訓練校に進むケースなどがある。公立学校へ通う国民に対して教育費は無料である。ブルネイ・ダルサラーム大学(UBD)は1985年に設立された同国唯一の総合大学で、学位取得コースは外国人学生にも開かれている。



中国、韓国 情勢と教育



中国

[正式名称: 中華人民共和国]



1. 概要

- (1) 人口: 約13億人、首都: 北京
- (2) 面積: 約960万km² (日本の約25倍)
- (3) 宗教: 仏教、イスラム教、キリスト教など
- (4) 言語: 漢語 (中国語)
- (5) 政治体制: 人民民主共和制 (国家元首は胡錦濤国家主席)
- (6) 概要: 古代文明発祥地のひとつ黄河文明に始まる4000年の歴史をもち、国内の遺跡の数も数えきれない。56の民族からなる多民族国家で、約92%は漢民族、残りの約8%は55の少数民族で独自の文化を維持・発展している。

2009年10月に中華人民共和国は建国60周年を迎えた。1978年からの「改革・開放」政策で中国経済は飛躍的に発展し、2008年には北京オリンピック、2010年には上海万博を開催、そして2010年GDPが日本を抜いて世界第2位となると見込まれているなど、世界の大きな注目を集めており、米中G2時代とも言われている。

なお、沿海部と内陸部・都市と農村・富裕層と貧困層などの格差の拡大、環境汚染、エネルギー確保、少数民族対策などの問題も存在している。

2. 教育

- (1) 初等中等教育: 基本的には6・3・3制であるが、一部、小学校を5年、中学校を4年とする5・4制を採用しているところもある。教育部は2001年に新しい教育「課程基準」を公表し、2005年より学年進行で全国実施された。この基準の特徴は、小学校の科目の総合化、総合的な学習の時間である「総合実践活動」の創設、「地方及び学校が定める課程」設置による地方及び学校の裁量権の拡大、小学校3年生からの外国語の導入などである。
- (2) 高等教育: 近年、中国の教育において、もっとも大きな変貌を遂げているのは高等教育である。文化大革命が終結し、大学入試が復活した1977年度、大学数(3年制の専科学校を含む)は404校、在学者は62.5万人であった。それが、2006年度には1,867校、1,999万にまで増加し、大学進学率も約20%に達している。80年代の後半から90年代の前半にかけて、大学教育無償制の廃止、大卒者に対する国の職業斡旋・保障制度の見直しなどが行われた。2009年度には大学卒業者が611万人となった。しかしながら、大学卒業生の増加で、約3割が就職できない状況が問題となっている。
- (3) 国際的な学生交流: 中国は積極的に留学生を受け入れており、2007年中に中国に来た外国人留学生は188カ国から19万6000人で過去最多となった。また、海外の大学に留学する中国人学生も多く、2007年時点で海外にいる中国人留学生は89万2000人に達している。



韓国

[正式名称: 大韓民国]



1. 概要

- (1) 人口: 4,887万人 (2010年)、首都: ソウル
- (2) 面積: 10万33 km² (朝鮮半島全体の45%、日本の約4分の1)
- (3) 宗教: 仏教25%、プロテスタント20%、カトリック7.4%、その他。社会・文化に儒教の影響を色濃く受けている。
- (4) 言語: 韓国語
- (5) 政治体制: 民主共和国 (国家元首は李明博(イ・ミョンバク)大統領)
- (6) 概要: 1945年8月に日本の植民地支配から解放された南朝鮮(北緯38度線以南)が3年の米軍政ののち、1948年に独立。1950~53年の朝鮮戦争を経て、1970年代、「漢江の奇跡」と言われる高度成長を遂げ、1996年にはアジアで2番目のOECD(経済協力開発機構)加盟国になった。1997年にはアジア経済危機の影響を受け金融・通貨不安が発生し、IMF(国際通貨基金)への支援に踏み切ったが、その後危機を脱却し、現在は好調な半導体やインターネット関連事業の成長により貿易は黒字基調に転換している。政治的には、1988年のソウルオリンピックを経て「民主化」が進み、1993年には金泳三(キム・ヨンサム)文民政権が誕生した。その後も金大中(キム・デジュン)、盧武鉉(ノ・ムヒョン)、李明博(イ・ミョンバク)と文民大統領が続いている。

2. 教育

- (1) 初等中等教育: 日本と同じ、6・3・3制を採用している。通学する学校は、初等学校(6年)の場合は地方教育厅が決定し、中学校(3年)への進学は、「学校群」(公立・私立を含む)内の中学校に抽選により振り分けられる。中学校までの9年間は義務教育なので、仮に私立に振り分けられた場合でも授業料は地方教育厅が負担する。
過度の受験競争緩和策として1970年代に導入された「平準化」政策により、高等学校への進学についても、「学校群」内の学校に抽選により配置される。但し、英才教育を目的に設立された「特殊目的高校」には平準化政策が適用されず、独自の選抜試験等により学生を募集することが認められている。なお、特殊目的高校には、「科学高校」「芸術・体育高校」「外国語高校」などがある。さらに、2008年からは、「科学英才学校」の増設や「マイスター高校」の導入など、英才教育や職業教育を目的とする高校の整備・拡充が実施されている。
- (2) 高等教育: 韓国は教育に対する関心が非常に高く2004年現在の大学進学率が世界最高の81.3%を記録した。高校までは学校選択の自由はなく、一発勝負の大学入試が過熱化し社会問題化する中、個別入試の廃止、大学修学能力試験の導入、面接・論述や内申の重視などの改革が韓国政府のイニシアティブで実施されてきている。
- (3) 国際的な学生交流:
 - ① 韓国人で海外の大学に留学している学生については、2003年約16万人であったのが、2007年には約21万8000人と増加している。留学先としては米国が最多(2007年、約5万9000人)である。
 - ② 韓国国内の大学で学ぶ外国人留学生についても、2004年約1万7000人が2007年約4万9000人と大幅に増加している。韓国政府は「Study Korea Project」において2012年までに10万人の受入を目指している。
 - ③ 韓国国内の激しい競争主義教育を避け、海外において外国語を修得するなどの目的で、初等・中等教育段階で海外へ留学する「早期留学」が増加している。2005年度には2万400人が早期留学している。

留学したい!

でも、関西外大には
どんなシステムがあるの?



KE

本学の
留学制度

2カ国留学 2年間の留学期間で2カ国の大学で学ぶ、充実のプログラムです。2カ国にそれぞれ1年間留学し、異なる文化的背景の中で、興味ある分野について継続して学ぶ機会を与えるのが、2カ国留学プログラムです。1年の留学を単に2年に延長するのではなく、2カ国で学習する内容が関連し合っていないけません。具体的にどの国で何を学びたいかは、学生がグランドデザインすることになっています。

交換留学 50カ国・地域に広がるネットワークを利用して、本学の交換提携校へ1年間留学。このプログラムは専攻分野・言語に関係なく、選考試験に合格すれば、どの国へも留学することが出来ます。提携大学がどのような言語圏にあっても、授業が英語(またはスペイン語)で受講できるためです。非英語圏へ留学する場合は、派遣先の言語も履修するので、多言語習得を目指す学生には最適なプログラムです。このプログラムの特徴は、学べる分野の豊富さです。2010年現在、50カ国の地域で331にのぼる大学と提携しており、このカリキュラムを利用すれば、ありとあらゆる分野での科目履修が可能となります。

推薦留学 交換留学同様、交換提携校へ1年間留学。交換留学との違いは、本学から支給される費用と選考方法。推薦留学生は本学の授業料を納めることにより、派遣先大学での授業料が免除されます。住居費・食費および個人的費用は自己負担となります。

認定留学 このプログラムでは、留学先の選択は基本的に自由です。ただし、留学が許可されるのは、「外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有するもの、またはこれに相当する教育機関」に限ります。従って、学位授与権のない語学学校などへの留学は「認定留学」としては認められません。

関西外国語大学の留学制度

急速にボーダーレス化が進む国際社会において求められるのは、高度な言語運用能力だけでなく、文化や価値観の違いによって生じる多種多様な問題を迅速に理解し対応できる能力です。これらは、さまざまな異文化体験を通して身につくものではないでしょうか。国際社会に貢献できる人材を育成するために、出来るだけ多くの留学や異文化体験の機会を提供しています。



以下は、アジア留学制度の概要を表にしたものです。

国名	使用言語	2カ国留学	交換留学	推薦留学	認定留学
中国	英語	○	○	○	○
韓国	英語	○	○	○	○
タイ	英語	○	○	○	○
ベトナム	ベトナム語		○	○	○
マレーシア	英語	○	○	○	○
シンガポール	英語	○	○	○	○
フィリピン	英語	○	○	○	○
台湾	中国語		○	○	○

※帰国留学生の単位認定について

【認定要領】

1. 留学先大学での認定対象科目の総授業時間に対し、1科目2000分以上(ESLは2700分以上)を原則として認定科目数を算出する。ただし、認定総単位数は60単位を限度とする。
2. 認定対象科目の授業内容を勘案のうえ、専門必修科目を優先させ認定し、次に専門選択科目及び共通教育科目の修得単位とする。
3. 留学生別科(Pre-Departure)の授業科目は読替え科目とする。

【単位認定方法】

単位認定については、教務委員会が決定し、教授会で承認を得るものとする。

「ASEAN+3」 大学コンソーシアム 概要

取り組み 概要

- ① アジアを知りアジアを担う「次世代国際人の養成」
- ② 日本留学への言語の壁を取り除く「英語での授業提供」

ポイント

- ASEAN諸国と中国、韓国、日本（ASEAN+3）の大学が提携しコンソーシアムを結成。
- 留学生30万人計画への対応と留学への言語の壁を取り除く「英語での授業提供」。
- 「2+2」二重学位取得をメインに母国語、英語、アジア圏現地語の習得。
- 日本人教員による英語授業提供のためのFD研修。

成果

- 2009年3月ASEAN+3大学コンソーシアム発足。
天津外国語大学・釜山外国語大学・バンコク大学・ベトナム国立社会人文科学大学ホーチミン校と提携。

<学生受け入れ>

2009年9月 中国-北方工業大学より13名の学位留学生（国際言語学部）
2009年2月 韓国-釜山外国語大学1名及び東西大学より4名の学位留学生（外国語学部）。

<学生派遣>

2009年9月 韓国-釜山外国語大学へ1名学位留学生。

■協定大学一覧 2010年8月現在

No. 国	大学名	包括協定の 有無	二重学位 協定の有無	学位留学生の受入		本学受入 学部名	学位留学生の派遣	
				年 月	人数		年 月	人数
1 中国	天津外国語大学	有 (2009年3月)	有 (2009年10月)					
2 韓国	釜山外国語大学	有 (2009年3月)	有 (2009年1月)	2010年2月	1	外国語学部	2009年9月	1
3 タイ	バンコク大学	有 (2009年3月)	△ (2010年予定)					
4 ベトナム	ベトナム国立社会 人文科学大学	有 (2009年3月)	有 (2010年1月)					
5 中国	北京語言大学	無	派遣 (2007年12月)				2008年9月 2009年9月	3 3
6 中国	北方工業大学	無	受入 (2008年4月)	2009年9月 2010年9月	13 (12)	国際言語学部		
7 中国	上海外国語大学	無	派遣 (2004年11月)				2008年9月 2009年9月	3 1
8 韓国	東西大学	無	有 (2009年1月)	2010年2月	4	外国語学部		

「ASEAN+3」 大学コンソーシアム 協定校の紹介

釜山外国語大学 (韓国)

<http://www.pufs.ac.kr>

1981年12月、釜山外国語大学として設置、開校した。英語科、仏語科、ドイツ語科、日本語科、中国語科、タイ語科、マレーインドネシア語科、経営学科、貿易学科、会計学科の10科であった。キリスト教、民主主義精神を基盤とし、国家と人類の繁栄及び安寧に寄与できるリーダーシップを持った人材育成を目的にしている。この目的のため、創造性、リーダーとしての特質だけではなく、外国語と文化に対する実用的な研究にも力を入れている。



天津外国語大学 (中国)

<http://www.tjfsu.edu.cn>

1964年創立の外国語専門大学。天津市の中心にあり、生活環境などとても便利。日本語学科もあり、交流もさかんです。留学生総数は206人、うち語学留学生186人。そのうち日本人52人。



ベトナム国立社会人文学科大学ホーチミン校 (ベトナム)

<http://www.hcmussh.edu.vn/>

ベトナム国立大学の一つである社会人文学科大学は、ホーチミン市の中心部にキャンパスを有するベトナム有数の国立大学で、ベトナム南部における教育研究の中心的役割を担っている。大学では20,000名を越える学部学生や大学院生が学んでいる。また、60ヶ国以上から約700名の留学生を受け入れている。同大学には「外国人のためのベトナム研究ベトナム語学部」があり、本学の交換留学生は、半年または1年単位でベトナム語集中コースやベトナム研究の授業を履修することができる。



バンコク大学 (タイ)

<http://www.bu.ac.th/>

実社会および学業において抜きん出た能力を持つ人物を育成することにある。教育テーマは「Advanced knowledge and expertise」(高度な知識と専門技術)、モットーは「Knowledge with Virtue」(豊かな人間性と知識の融合)。

バンコク大学にはタイ語と英語による2つのプログラムがあり、学部数は計13、タイ語プログラムは経営管理、会計、経済、マスコミ、人文、法律、理学、芸術、工学の9学部。インターナショナルプログラムは英語力を磨き、将来、ビジネスの世界で国際的に活躍したい人や海外留学を考えている人のために全て英語で授業が行われ、マーケティング、マスコミ、ビジネス英語、ホテル観光を学ぶことができる。中でもマスコミ学部は人気があり、他大学(特に国立)に比べてマルチメディア関係の充実度が高い。



関西外国語大学

<http://www.kansaiandai.ac.jp>

関西外大は、「国際人の育成」と「実学重視」を建学の理念としています。「地球のあす」を担う学生たちの言語能力をいかに強化し、国際通用力のあるコミュニケーション能力を身に付けさせるか。「語学の、その先へ。」をキーワードとして、「語学+α」の教育をめざしています。インターネットを通じた授業外学習支援ツールを導入し、教育効果の向上・充実に努めている。また、春、秋の各学期で授業が完結する完全セメスター制により、短期集中型の効果的な学習が可能で、海外にも留学しやすい環境が整っている。本学、そして海外留学先大学での学修や異文化体験等。それらが遺憾なく相乗効果を発揮し、高度な語学力に加え、豊かな知識と教養、鋭敏な国際感覚を身に付けた「高度な専門職業人」が育つよう、多様な工夫を凝らしている。平成23年4月には、英語キャリア学部が開設予定である。



ベトナム・USSHホーチミン校、タイ・バンコク大学との 「2+2学位留学協定」について

(1) 受け入れ・派遣近況について

	本学への受け入れ実績(予定)					
	2008秋	2009春	2009秋	2010春	2010秋	2011春
USSH	1	1	1	1	0	
バンコク大学	1	1	1	0	0	

	本学からの派遣実績(予定)					
	2008秋	2009春	2009秋	2010春	2010秋	2011春
USSH	1	1	1	1	0	
バンコク大学	0	0	0	0	0	

(2) 「2+2学位留学協定」の内容 ※どちらも学費免除です。

	USSHホーチミン校 (Jan. 13, 2010) 締結
単位認定	派遣元大学の単位「64単位」を卒業所要単位として認定
派遣先大学での最低修得単位数	ホーチミン校:76単位 (140-64=76) 関西外大:60単位 (124-64=60)
受け入れ学位プログラム	ホーチミン校: 1) English Linguistics and Literature 2) Vietnamese Studies (ベトナム語運用能力テスト「合」が条件) 3) Intensive Vietnamese Language Course (1学期/2学期)

	バンコク大学2010年度中に締結予定
単位認定	派遣元大学の単位「64単位」を卒業所要単位として認定
派遣先大学での最低修得単位数	バンコク大学: Thai Program 71単位 (135-64=71) International Program 65単位 (129-64=65) 66単位 (130-64=66) 関西外大: 60単位 (124-64=60)
受け入れ学位プログラム	1) Bangkok University International College 2) School of Humanities 3) Intensive Thai Language Course (1学期/2学期)



アジア留学に役立つURL集

独立行政法人日本学生支援機構の留学に関するページ
留学情報センターの利用案内のほか、海外留学に関しては、奨学金案内、国別・目的別の留学の手引書、留学に関する説明会の案内、出版物の紹介などを提供。
<http://www.jasso.go.jp/ryugaku/index.html> (日本語)

UNESCOのホームページ内の世界各国の教育情報
<http://www.unesco.org/iau/onlinedatabases/index.html> (英語)

日本学生支援機構の「海外留学の奨学金」のページ
http://www.jasso.go.jp/study_a/scholarships.html (日本語)

外務省海外安全相談センター
<http://www.mofa.go.jp/anzen> (日本語)

インドネシア大使館
<http://indonesianembassy.jp/> (インドネシア語、一部日本語)

タイ大使館 文化情報、ビザ情報などを提供。
<http://www.thaiembassy.jp/> (日本語、タイ語、英語)

大韓民国大使館
<http://jpn-tokyo.mofat.go.kr/languages/as/jpn-tokyo/main/index.jsp>
(日本語、韓国語)

中華人民共和国大使館
<http://www.china-embassy.or.jp> (日本語、中国語)

ベトナムの基礎知識、歴史と社会、教育制度、留学事情など
http://www.jasso.go.jp/study_a/oversea_info_vietnam.html (日本語)

関西外国語大学 GPサイト
(本学のASEAN+3に関するニュースやアジア留学経験のある先輩方のコラムを掲載。)
<http://www.kansai.ac.jp/special/asean3/>